

ニューヨーク・タイムズ聖週末の署名入り記事：「神を廃止しよう」

<https://www.infowars.com/posts/new-york-times-op-ed-on-holy-weekend-lets-get-rid-of-god/>

Breitbart | Infowars: Occult & Globalists

April 16, 2022

⇒ 「神々を殺すことは、私とその陰に隠れることのできる一つの考えだ」

ニューヨーク・タイムズは、署名入り金曜日記事で、神への信仰の廃止を提案した——1年の最も神聖な週末の1日が始まろうとするとき。

「この戦争のときに、私は神を諦めることを提案する」と題する、この記事は、神は「戦争と暴力」に対し、「抑圧と苦しみ」に対し責任があると主張し、人々は神について子供に教育することをやめるべきだと言った。

<https://www.nytimes.com/2022/04/15/opinion/passover-giving-up-god.html>

著者の Shalom Auslander は、ニューヨークの宗教的なユダヤ人共同体で、自分が受けた教育に対し、幻滅を感じており、このように論じている：——

神は幅広いブラシで絵を描くようだ。彼はローラーで絵を描く。エジプトでは、彼は最初に生まれた牛をさえ殺した、と我々のラビは言った。彼は牝牛を殺した。もし彼が人間なら、ユダヤ人やキリスト教徒やムスリムの神は、ハーグの国際裁判所に連行されるだろう。にもかかわらず我々は、彼を讃える。我々は神に倣おうとする。我々の子どもが神に似ることを願う。

おそらく、ミサイルが雨のように落ち、死者が集団墓地で発見されている、この時こそ、この憎むべき神に倣うのをやめる好機だ。おそらく我々は、彼の残忍さを讃えることはやめることができる。おそらく今が、子どもたちに神を見捨てることを教え、可能な限り神に**似ない**ことを教えるよい時期だ。

.....

神々を殺すことは、私が陰に隠れることのできる一つの考えだ。

聖金曜日は、復活祭日曜日に続いて、広く祝祭日となっており、過ぎ越し祭りは金曜日の夜から始まって祝われる。<https://www.breitbart.com/faith/2022/04/15/passover-begins-at-sundown-friday-jewish-festival-of-freedom/>

[訳者 Greatchain 注]

ここでは重要なことが言われている。普通、「神を殺そうではないか」とは、誰も言わない。それを最も有名な新聞である NY タイムズが、あえて言った（誰かに言わせた）ということは、現在そういう言い方が、最もふさわしい、不気味で危機的な世相が存在することを、言おうとしていると考えられる。

我々、特に私のような 90 近い老齢者は、若い頃、「無神論」とは単に神がないという主張だから、中立的で合理的考え方だと、長い間、思っていた。ところがそうではなかった。神の存在を否定することは、神に反対するサタン（悪魔）に積極的に与することであることが、わかってきた——特に宗教を教えられなくても。今、そのように合意されたサタンが、わが国でも西側諸国でも、「主流メディア」に支配された所では、どこでも、当然のように侵入している。すわわち「主流メディア」とは、「陰に隠れて」何食わぬ顔をして、サタン教を宣伝し、神殺しを実行する使命をもつ機関のことである。

そんなことを言われても実感できないと言う人のために、サタン教文化というものが、どんな感じを与えるものなのかを、私の感覚で説明してみたい。これは多くの人を知り、ここでも何度も触れたので、説明は要らないかもしれないが、もう一度繰り返すと、米コロラド州デンバー国際空港に、いくつかの有名な壁画と彫刻がある。これは明らかに、「神の廃止」を狙った、特定の思想と文化をもつ人々の、作らせたものと思われる。私は、かつてこれを「子供の死体のある風景」と名付けた。

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/180330.pdf>

壁画のおそらく最も有名なのは、明かにナチスの将校が、防毒マスクを着け、半月刀を振りかざして、鳩に切り付けており、その周囲では女たちが、死んだ子供を抱いて泣いている。これは現在の、ウクライナの残虐な「ネオナチ・アゾフ大隊」を思わせ、彼らが、ナチスのアイヒマンを手本として、子供殺しを公言していることにも似ている。

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220317.pdf>

また彫像としては、柵の上の、スーツケースに乗った悪魔の像は、核爆弾か、生物・化学兵器を思わせる。また空港の玄関先の不気味な「青白い馬」の彫刻は、黙示録の4頭の馬の1つであり、現に、この彫刻の作者は、馬が倒れて圧死したと言われる。それに、

「アヌビス」という犬の頭をした像は、エジプトの死神である。こうした作品のすべてが、「神と（その被造物）人間を殺せ」というテーマによるもので、普通の芸術作品ではない。我々の環境がこういうものによって支配され、子どもの教育も、このような者たちによって行われると想像してみるとよい。これは単なる空想ではない。彼らは我々の玄関先にまで迫ってきている。

北朝鮮は「天国」であるというプロパガンダによって騙され、在日韓国人らが盛んに渡航した頃の話に、ある人が、ベートーベンのレコードを何枚かもっていた。これが官憲によって見つけられ、目の前で叩き壊されたという事件があった。「我々には主体（チュチェ）思想がある、そんなものは要らない」と彼は言われた…。「自分はベートーベンがなければ生きていけない」と言う人々が、かなりのパーセンテージで存在するだろう。今、この北朝鮮と同じ、暗黒の時代が始まっている。

バイデンは、ウクライナ紛争のさなかにも、「トランスジェンダー」を支持して、かなり時間をかけて話をしている。なぜそんなことを？ それは、人間に男女の別があってはならないからである。神の秩序を破壊することによって、神の息の根を止めることが、「我々の」絶対命令だからである。

最後に、おそらく大多数の人々が気づいているが、なぜか分からない話をしたい。ここ2, 3週間前から、なぜ、医者に対する転職の誘いのキャンペーンが行われ、高額の給与と、優遇が約束されるが、名は外に出さないというような、胡散臭い話が出ているのだろうか？ これは誰でもほぼ察しがつく話である。この謎のキーワードを1つだけあげておくと、Ezekiel Emanuel という名である。実は私が、ある病気で入院し、老人の私の「処置」をめぐる不穏な空気があったとき、幸い難を逃れたことがある。そのとき以来、私はこの名を知っていた。これだけで、後は検索すればすべてわかるので必要もないが、1つだけ言えば、同じエマニュエルで、ラームという人は、現在の駐日米大使で、エゼキエルの兄弟のようである。これらはすべて、現行の、執拗なワクチン運動とつながっている。私がお医者さんたちに申し上げたいことは、「あなたの魂を優先せよ」ということである。参考文献：<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/211231.pdf>